

世田谷・九条の会

世田谷・九条の会 ニュース No54 2019年8月30日発行 (題字 西山簡石)	●事務局 〒154-0017 世田谷区世田谷 1-11-16 世田谷民商気付 Tel:03-6413-9547 Fax:03-6413-9548 Mail:setagaya9jou@kzh.biglobe.ne.jp ●ホームページ http://www7a.biglobe.ne.jp/~setgagaya-9jou ●郵便振替口座 記番号 00110-5-260741 世田谷・九条の会
--	---

参議院選挙の結果について

高津 司

参議院選挙の結果、改憲派国会議員を3分の2以下に押し戻すことができました。国民世論では過半数が改憲に反対しているとはいえ、国会議員の中で改憲派が3分の2以上を占めていることには常に不気味な重苦しさを感じてきました。安保法制反対から始まった市民と野党の連帯の運動が改憲の野望の壁を一つ打ち破りました。

8月17日の深夜にNHKで映画「ひろしま」(1953年、関川秀雄監督)の放映がありました。被ばくした広島の様状と原爆の非人間性を圧倒的な力で伝えています。終戦から8年しか



経ておらず、原爆による白血病患者が多発し、戦災孤児がまだ取り残されている中でも、朝鮮戦争があり米ソの核競争激化の中で広島の街に軍艦マーチが鳴り響く様子も描かれ、平和から逆行していく流れに警告を発しています。この映画は日教組などの団体と市民の運動により作成された

このことですが、この市民の反戦平和の運動が今日の九条の会や市民の運動に引き継がれ、今回の選挙結果にもつながっていることを感じました。

農大通り診療所が所属する民医連は、この春から自分たちの歴史と綱領を学ぶ運動を全職員で進めています。

民医連は、医療・介護の事業・経営体であると同時に、患者さんのいのちと健康を守るためには、戦争と貧困をなくす運動が不可欠であると位置づけ取り組んできました。

今の時代、貧困・格差を覆い隠すために自己責任論がふりまかれ、戦争の本質から目をそらすために排外主義がまた喧伝されています。説得力のある丁寧な対話の必要性を痛感します

農大通り診療所は経堂の地に生まれて 30 年になります。世田谷の平和を愛する皆さん方とこれからも一緒に歩んで行きたいと思います。
(農大通り診療所長)

地域から政治を変えようー8/24 交流会

世田谷・九条の会事務局

2019 年の 5~8 月は、国内的にも、国際的にも大きな出来事がありました。米トランプ大統領は、イランに対し、「有志連合」で、軍事を含めた圧力を強めており、日本政府に対しても、何らかの形で加わるよう強力を働きかけています。集団的自衛権を容認した安保法制のもとで、安倍政権がどのような行動に出るのか、中でも自衛隊のいずも型護衛艦を米海兵隊の F35B ステルス戦闘機の「空母」として活用させようとする危険な企みには、注意が必要です。

同時にトランプが仕掛けた INF（中距離核戦力全廃条約）の失効は、米ロの中距離ミサイルと小型核兵器の開発競争に拍車をかけるものとなっています。すでに米国は中距離ミサイルの発射実験に踏み切り、ロシアも、条約には関わっていなかった中国も同じ道をたどることは必至とされています。今年被爆 74 周年を迎えたヒロシマ、ナガサキの平和式典で、両市市長、被爆者代表は、日本政府に対し、核兵器禁止条約を一日も早く参加し批准することを切々と訴えました。世界では全米市長会議での条約支持決議、さらに条約の発効に必要な 50 ヶ国の半数にあたる 25 ヶ国目としてボリビアが批准するなどの前進が見られました。にも拘わらず、唯一の戦争被爆国である日本の安倍首相は、式典挨拶で条約には全くふれず、核保有国と非核保有国の「橋渡し」をしたいと述べるに留め、核廃絶の先頭に立つという姿勢を示すことはありませんでした。核廃絶への取り組みは、九条の会の運動にとっても柱のひとつとなっています。

北東アジアでは、米中の際限のない関税賦課の応酬という経済摩擦が世界経済に大きな影響を及ぼしています。これに加え、日韓両政府間では、戦時中徴用工への企業賠償を求めた韓国の司法判断に端を発し、輸出入制限、さらには GSOMIA の破棄と、政府間の軋轢が、安全保障分野にまで拡大しています。それぞれの政府が自らの政権維持のために、メディアと一体となって反韓、反日の世論を煽り立てる動きがあることには留意する必要があります。

香港では、「逃亡犯条例」の撤回と自主権を求め、香港政府や中国政府の威嚇にもかかわらず、百万人を超える集会やデモが繰り返し展開されています。欧米では、「気候非常事態宣言」行動が、地方自治体や大学、国のレベルにまで波及しています。また米国内では、度重なる銃乱射事件に銃規制を求める運動が高まっています。これらの運動が高校生・大学生など若い人々の自主的な運動から広がりを見せていることは、世界の潮流のひとつとして特筆されます。

国内でも大きな出来事が2つありました。ひとつは先の国会で憲法改正発議を阻止したこと。もうひとつは、7月の参議院選挙で、改憲を容認する立場の自公維が発議に必要な2/3を割り込み、選挙前の勢力から明らかに後退したことです。この力を生み出したのが、野党と市民の共闘—13項目の共通政策を確認して1人区すべてで統一候補を擁立し、10選挙区で勝利したこと—でした。投票率が5割を割り、戦後2番目の低さだったこと、とくに18、19歳の投票率が3割強で、前回から14ポイントも落ち込んだことは、私たちとしても真剣に考える必要があります。

8月24日(土)に開かれた19年3回目の交流会は、6つの九条の会(深沢、桜丘、世田谷、成城・祖師谷、代沢、まつざわ)から9人が参加して開かれました。この間、区内の九条の会は、6月7~9日の一斉駅頭宣伝行動に取り組んだほか、それぞれの地域での活動がありました。交流会では、世田谷・九条の会事務局からの上述の情勢報告と、各九条の会からの以下の活動報告に基づいて活発な意見が交換されました。中でも区民への働きかけを各戸



訪問などで更に広げること、区議を初めとする議員との懇談を深め、議会から意見書や要請文を出させる運動に取り組もうという意思が共有されたことが注目されました。

【成城・祖師谷】

成城・祖師谷九条の会では、多摩地域での旺盛な運動に刺激を受けて、これまでに集合住宅での署名活動の推進—いわゆる「団地作戦」—を、10回行ってきた。駅頭では働きかけの難しい層に対話を広める有効な行動だったと考えている。7月末の時点で集約したところ、会として累計1405筆に達した。今後は、団地だけでなく、戸建て住宅への訪問・訴えにも取り組む必要があると考えていて、そのやり方を議論している。9/6~9の一斉行動期間には、9/8に成城学園前での実施を予定している。

【代沢】

代田・九条の会と共催で8/18に終戦記念の日のつどいを開き、38人が参加した。今年は、映画「ザ・思いやりパート2」を鑑賞した。機関紙「けいじばん」には、憲法、九条だけではなくなか読んでもらえないので、年金や経済問題を取り上げるなどの工夫をしている。区政のあり方を考えようという観点から、地元選出の区議と懇談する機会を持った。今後成城と同じように各戸訪問をしてみたいと考えている。

【深沢】

深沢九条の会の行動ではないが、6/25世田谷革新懇で、岸本正人さんを招いて日米地位協定の学習会をやった。地位協定の見直しを求める運動が、今年になってから7/27の全国知事会の

提言をはじめ、7月までに152市町村で改定を求める意見書が出されている。東京では多摩地域で出ているが、23区ではほとんど進んでいない。世田谷から積極的にかつ慎重に議員に働きかけて行きたいと思う。統一宣伝行動は9/9に桜新町駅を予定。

【まつざわ】

7/8の前川喜平さんの講演会について、このニュースの中で別記事にしてあるのでそれを参照してほしい。この講演会には会場いっぱいの50名が集まり、その2/3は新規参加で、多くのアンケート回答が寄せられた。これから順次報告していきたい。9/8には、加藤圭木さんと呼んで、朝鮮半島と間の平和構築についての学習会を予定している。

【桜丘】

日韓の緊張激化は、危険で放置できない。桜丘では、「韓国は敵なのか」をテーマとして、11月初旬に開かれる区民センターまつりでの展示を予定している。議員への働きかけは、区議から国会議員まで、絶えず続けていくことが必要だと思う。

【ヒバクシャ国際署名世田谷連絡会】

5月、6月にそれぞれ1回、烏山団地でヒバクシャ国際署名と3000万統一署名との2つを訴えた。合計で前者が178筆、後者が116筆寄せられた。今年の原水爆禁止世界大会・長崎に世田谷から18名が参加した。来年は被爆75年で、NPT再検討会議の直前に、NYで世界大会が初めて開催される。歴史的転機の年にしようと呼びかけられている。ヒバクシャ国際署名を推進したい。

前川喜平氏講演と「新聞記者」

春木 則夫

7月8日、「まつざわ九条の会」が待ちに待った講演会当日、50名という小さな会場は、30分前の開場とともに席が埋まっていった。1分前、まだ現れない。主催者側のヒヤヒヤをよそに定刻ジャストに姿を見せた。さすが元トップ官僚だ。

モリ・カケ問題に始まり、憲法問題、教育問題など講演内容は非常に広範で多岐にわたった。一つ一つが実証的で説得力のある内容。安倍一強による官邸支配が立法



府・行政府さらに司法府にまでおよび、「すでに安倍政権はファシズムに入っている」と断罪する主張は、参加者一同に強い感銘を与えた。

ご存知のごとく前川氏の軽妙な語り口調は、時間の経過を忘れさせる。「先日『佐川さん』と呼びかけられました」「モリトモの佐川とカケの前川でコンビを組めば。。」などと笑いのエピソードは、あっという間に聴き手を惹きつける。「一役人（佐川さん）が自分の判断で（決裁）文書を改ざんなんてする訳ないですよ」「改ざん文書を国会に提出し、偽証する。これは民主主義に敵対する行為で、犯罪です」と。

日本版 CIA 内閣情報調査室の実態を赤裸々に暴露する映画【新聞記者】にも言及、「私も出演しているんです」「多くの人に観てもらいたい。とりわけ霞が関の官僚には観てもらいたいですね」と。そこで観に行った。前川講演を聞いた後だったので、一層この映画が発するインパクトは強烈に感じられた。

前川講演と「新聞記者」は、私たち市民に訴えかける。（政権の腐敗を一掃するのは、一人一人の国民に課せられた責務なんですよ！）と。（九条の会まつざわ）

楽しかったコスタリカの東方見聞録（その2）

井出 今朝二

2日目、ホテル・ラディソンの朝食はバイキング形式なのでとっても気楽。パン、肉料理の他に長粒米に黒豆を入れて炊いたガジョピントが出された。どこでも供されるこの料理は、スペイン人がアメリカ大陸に持ち込んだ米と先住民民族によって栽培された多くの種類の豆が組み合わさったもので、しっとりとしてベタベタ感が少なく、チリ、コリアンダー、玉ねぎで味付けされておりイカ墨のように黒く見えるが慣れれば意外と美味しくて食べ飽きない。食後はさっぱりしたコスタリカコーヒーとデザートのスイカ・バナナ・マンゴーなどの新鮮なフルーツは豊富でとてもおいしかった。

朝食後は部屋に戻り小休憩、長旅の疲れを癒す。午後はサン・ホセ市内の国立劇場・文化広場・黄金博物館・中央通り・メトロポリタン大聖堂などを見学する。夕食のレストランではインペリアルビールがお勧めだが、サトウキビから造られるカシイケという地酒も美味しかった。現地ガイドは日本語も話せるゴジツアーズの丸山真理さん、母は日本人のハーフで若くて美人、質問にも丁寧に説明してくれ好感が持てる。

3日目の午前中は国会訪問。コロニアル様式の木造二階建ての建物、一見裕福な人の住まいかと思わせる。老朽化が進み手狭のためか、今隣に鉄筋コンクリート造りの大きな国会を建築中

だった。向かい側には「世界ふれあい街歩き」で観たニカラグア人の生ジュース売りのおじさんがいた。

国会は一院制で 57 名、そのうち 24 名は女性だ。法律で女性議員は 40%以上と定められていると聞いて日本とは随分違うなと感心する。男女同権世界ランキングは日本 110 位に比べコスタリカは 22 位だけど、男尊女卑が強く残念なことに女性に対する暴力は増えているという、そのため 18 歳以下の女性と付き合うのも法律で禁止されている。



議場の両側はガラス窓で議長席から見た左側は新聞記者の部屋で議会の様子が窓と館内スピーカーで伝えられている。右側は傍聴席で国民に都合悪いことが議論されるとガラス窓を叩いて抗議するそうだ。29 名以上の賛成で可決、重要事項は 38 名以上の賛成が必要だと説明。

Q；軍隊がなくて心配ないですか？

A；本来軍隊は国を守るもの、廃止しても不安はない、誰かが守ってくれるよ。ニカラグアが攻めてきてもパナマ・アメリカが助けてくれると約束した。パナマは兄弟のようなものだから助けてくれる。アメリカは経済的に進出しているので助けると案内の女性職員は自信をもって答えてくれた。

Q；コスタリカの食料自給率は？

A；15%、バナナ、コーヒー、メロン、フルーツが主要輸出品目だが、生物多様性を資源として未来を設計している。熱帯雨林・雲霧林・乾燥林など多様な気候と豊富な自然保護区・国立公園で観光客を呼び込んでいる。

午後は、「選挙」制度について選挙最高裁判所を訪問し、職員のホセさんから説明を受ける。司法・行政・立法に加えて四権分立といわれ独立した権限を持っている。「選挙最高裁判所」とは日本の戸籍課と選挙管理委員会を合わせたようなもの。

出生・死亡・婚姻・住所移転などを扱っていて、12 歳になると親が子どもを同伴して身分証明書を作る義務がある。写真と指紋が必要で入学する時や映画を観るときに必要といわれる。常時携帯義務があり、所持していないと不法滞在者として警察に通報される恐れがあるとのこと。18 歳以上は選挙権が付与され、一人でカード発行の手続きができるが、この身分証明書は 10 年で更新、生年月日・出生地・性別・父母の氏名・投票所まで記載されている。1948 年の不正選挙をきっかけに不正を防止するため作られ、指定された投票所以外では投票できない。だ

から住所変更や氏名変更の時はカードの再発行となる。小学校が投票所で、全国で 6542 ヲ所あるそうだ。

選挙については小学校のカリキュラムに組み込まれていて、強い関心を持ってもらうためにスタッフが絵本なども用意しながら学校を訪問し、遊びと勉強を合わせて行っているという。

Q；日本のマイナンバー制度と異なるのか？

A；番号で全て検索可能で原則公開、国民性なのか、情報が他人に知られても全く気にしない。

予め写真付きの選挙人名簿を作り、投票したらサインをしてもらう。投票用紙には候補者、政党名が印刷してあり支持する者の欄にクレパスでXをつけ、四つ折りにして投票する。各投票所では投票と同時に開票する。未使用の投票用紙も含め全てサン・ホセ市一か所に集めて再度機械と手で数えるそうだ。 (前「生かそう憲法！今こそ9条を！世田谷の会」事務局長)

2020 年を核兵器廃絶の歴史的転機に

－原水爆禁止 2019 年世界大会で呼びかけ－

若林 武

原水爆禁止 2019 年世界大会が 8 月 3 日から 7 日間の日程で開催され、9 日の閉会総会（ナガサキデー大会）には 5000 人が参加しました。世田谷代表团からは 19 人が参加しました。

来年は被爆 75 年となりますが、核不拡散条約（NPT）再検討会議がひらかれ、また「ヒバクシャ国際署名」の取り組み期限となるなど節目の年となることから、核兵器のない世界への転機とするための「歴史的な行動」に立ち上がろうとよびかけられました。

◆重要な局面で前進を切り拓いてきた世論と運動

米政権は 5 月にイランとの「核合意」から一方的に離脱を宣言しました。また、中距離核戦力（INF）全廃条約が失効（8 月 2 日）し米ロの核軍拡競争への懸念が高まるなど、核兵器をめぐる不透明な情勢がひろがっています。それたいして、今年の世界大会は核軍縮への逆行を厳しく批判するとともに、核兵器廃絶の展望と運動の方向を示すものとなりました。国際会議宣言は、「核兵器のない世界」を求める声が、世界の「圧倒的多数」であり、「重要な局面で前進をひらいてきたのは、世界の世論と運動であ



る」と強調しました。核兵器禁止条約を実現させた力の一つが市民社会と諸国政府の共同であり、情勢を前向きにすすめるために、この共同をさらに発展させようという決意と確信に満ちた大会となったと思います。

来年は原水爆禁止世界大会をNPT再検討会議の開催にあわせ、ニューヨークでも開くという構想が発表されました。来年のNPT再検討会議が成果を得られるかどうかは予断を許しませんが、核保有五大国が条約に明記された核軍備縮小撤廃を交渉する義務をはたすよう世論と運動で要求していくことが常用だと思いました。

◆「生きているうちに核兵器廃絶を」、被爆者の悲願に応え

被爆者の平均年齢は82歳を超えています。被爆者の「生きているうちに核兵器の廃絶を」との願いを実現するために残された時間は多くありません。広島・長崎の両市長は平和宣言のなかで日本政府に対し核兵器禁止条約への積極的対応や参加を求めました。しかし、今年も安倍晋三首相は、式典の中で禁止条約には全く触れませんでした。唯一の戦争被爆国である日本政府が被爆者の悲願に応え、核兵器廃絶にむけ積極的な役割を果たすべきではないでしょうか。

◆非核平和の自治体づくり

8月8日に開催された分散会で、私は第3分科会「非核平和の自治体づくり」に参加しました。最初に稲嶺進元名護市長が発言し、昨年の市長選のたたかいについてふりかえるとともに、亡くなった翁長知事の意味を継いで当選した玉城デニー新知事とその運動の力で、辺野古に新基地を作らせない決意が語られました。参加者からの発言では、地域原水協が地元の首長や行政をまきこんで運動し、非核平和都市宣言の採択や、ヒバクシャ署名を推進していることなどの経験が交流されました。世田谷区は「平和都市宣言」を行っていますが、宣言文には「非核」が刻まれています。行政として推進しているわけですから、私たち区職労も役割を発揮しなければならないと思いました。（世田谷区職員労働組合）

生き残らされた者の使命

小塩 海平

先般『農学と戦争 知られざる満洲報国農場』という本を岩波書店から上梓した。この本は、私自身が卒業し、現在奉職している東京農業大学という大学が、かつて農学という学問をとおして深く関わった満洲報国農場という政策の全貌を明らかにし、多くの学生を死に追いやった史実について、二人の同志とともに掘り起こしを試みたものである。もちろん、

母校である東京農業大学という大学を糾弾しようとしたのではなく、学生時代、キャンパス内にある慰霊碑の存在を知りつつ、ずっと無関心、無責任に素通りしていた自分自身を問い直すための作業であった。



農大の新任教員として卒業生のインタビューを担当することになった私は、満洲報国農場の生き残りの方々のお話を伺い、この事件が、決して遠い過去の出来事ではなく、国家や大学の中に今も脈々と息づいている無責任体制と通底していることに気づかされた。そして、明治以降形作られてきた農学という学問自体に、農民や学生を軽視する構造的な欠陥があったのではないかと考えるようになった。こうして農大の歴代学長を含む、日本の近代農学の確立に貢献した学者たちの言動をひとつひとつ検討し、これまで私自身が疑うことなく受け入れてきた農学という学問の枠組みを問い直すことに着手した。それは、自分自身を一旦解体して、また新たに立て直すような、かなりしんどい作業であった。

この作業をとりあえず形にすることが出来たのは、生還者の方々の一つ一つの証言に突き動かされたからである。例えば、本書には登場しなかったが、農大報国農場からの逃避行を引導した上級生の東海林仲之介さんは、晩年「自分の骨は墓に納めてくれるな」と家族に遺言されている。多くの仲間たちが、満洲で斃れたままになっているのに、自分だけが安穏と墓に納まるわけにはいかないというのが、東海林さんの信念であった。

「生きている自分と死ななければならなかった友とを分けたものは何だったのか?」。生還者たちが生涯かけて繰り返しかえし自問自答してきた、この問いかけは、約20年前の地下鉄日比谷線事故で親しい友人を突然亡くした私自身にとっても共通の問いかけであった。生き残ったのは、現状分析が正確だったとか、予知能力に優れていたとか、体力があったとか、処世術に長けていたなどという、サバイバル能力とは無関係である。彼ではなく、私が死んでもよかったのだし、むしろ本当は私こそ死ぬべき存在だったのかもしれない。しかし、彼ではなく、私が生き残らされたからには、私には、彼の分まで生き、このような悲劇が二度と起こらないように考え、行動する使命が課せられていると受け取るほかない。そのような意味では、私も、満洲報国農場の悲劇の生き残りのひとりである。私自身、時代は違えど、東京農大の農業拓殖科に入学し、1年次の農業実習を経験したひとりなのだから。

このような「生き残らされた」という感覚は、あえて言わせていただければ、戦争のみならず、阪神大震災や東日本大震災を経験したすべての人に共通な感覚だといってもよいであろう。もちろん、生き残らされた私たちも、あと幾ばくか生きた後、やがて亡くなった友と同じようにこの世を去ることになる。だが、生き残らされたしばしの間、あの悲劇を最後にすべく、私たち

は最善を尽くさなければならぬのではないだろうか。いまだに続いている国家や大学の無責任な立場主義を打破すること、歴史を学んで正しく伝え、憲法を護持することが、生き残らされたものの一人である私の使命であると考えている。
(東京農業大学教授)

75年前の女学生 (4)

西村 恵子

その4 終戦後のこと

終戦の玉音放送は家で聞きました。大事な放送があるということでラジオをつけてみんなで聞いていたのですが、雑音がひどくて何を言っているのか、全然聞き取れませんでした。しばらくしてから、隣のおじさんが来て「戦争に負けたらしいね」と言ったのでようやく戦争が終わったことを知りました。

戦争が終わってから、歴史の先生の落ち込みようは、大変なものでした。「今まで教えてきたことがすべて白紙にされる」といったことだったようです。授業は再開されましたが、満足な教科書也没有ありません。かの有名な教科書の「墨塗り」は記憶にないのですが、「墨塗をやったよね」と後で言っていた同級生もいるので、やったのかもしれません。

体操は「おなかですくからやめましょう」。そもそも校庭は畑になっていました。国語の教科書もないので、先生がガリ版で「たけくらべ」などを印刷してくれて読みました。

進駐軍のアメリカ兵が学校に視察に来たこともありましたが、男の英語の先生が通訳として案内して回っていましたが、先生にしても何年も英語が禁止されていたわけですから、通じていたのやらないのやら、困ったような顔をしていました。

家の近くにも「闇市」ができました。大都市だけでなく小さな町にも「闇市」は存在し、終戦後の人々の必死の生活が始まったということでしょう。

修学旅行もない、卒業アルバムもない、ないないづくしではありましたが、こうして母の女学校生活は終わったのでした。

数年前に発行された、母の母校の同窓会名簿を見ると、母の学年が、「高等女学校」としては最後の卒業生になっています。次の年からは新制の中学と高校の卒業ということになっていました。母の学年も、あと2年学校に残れば新制高校卒の資格がもらえるということで、そのま



ま学校に残った人もいたようです。母を含めほとんどの人はその年に卒業しましたが。

私の娘が小さいころ、みんなでお正月やお盆で神社やお寺に一緒にお参りに行くことが多かったのですが、娘が「おばあちゃんは何を（神様仏様に）お願いするの？」という問いに母は「おばあちゃんは平和でありますようにってことは必ずお願いすることにしているよ」と答えていました。

私も、テレビや本などで「疎開した」側の話や、食料の買い出しに「行った」話は見聞きすることが多いのですが、それを受け入れる側の話はあまり聞いたことがありませんでした。戦争が生活を破壊し、非科学的なこと・非人道的なことが強制されるようになることだけでも、次世代に伝えていかななくてはならないと思っています。また、事実を伝えることは言うまでもありませんが、戦争が起こったらどうなるのか、想像力を働かせる教育も大切だと考えています。憲法9条の価値もしっかりと次世代に伝えていかななくてはならないと思います。

(世田谷区労連)

【夏の句】

山形 三郎

夏季は、立夏（5月6日）から立秋（8月8日）の前日まで。九夏とは、夏の九十日の称、三夏は、初夏、仲夏、晩夏の総称で、炎帝、朱夏は、夏の漢名である。夏の海、夏の島、子の夏、夏の夜などとも用いることが出来る。

夏は、見るもの、感じるものが多い。俳句を作る時には、小学生時代の絵日記を思い出そう。幼い時の感覚から、良い句題、句にあたることがある。

「暑き日を海に入れたり最上川」	芭蕉
「向日葵や戦場よりの文一行」	草田男
「かなしさよ夏病みこもる髪長し」	秀野
「熟れ柿をもいで日和の果報かな」	時子

梅雨あけて帽子を選ぶ晴れの朝	初心者 A
陽傾きぬほっと一息蝉時雨	初心者 B

【当面の行動予定】

- 9/6 原水爆禁止 2019 年世界大会世田谷代表团報告集会 宮の坂区民センター 18:30～
- 9/6～9/9 区内駅頭統一宣伝行動
- 9/8 成城学園駅 成城・祖師谷九条の会 16:00～17:00
- 9/8 梅が丘駅 代田・九条の会 10:00～11:00
- 9/9 桜新町駅 深沢九条の会 15:00～16:00
- 9/9 三軒茶屋駅 生かそう憲法！今こそ九条を！世田谷の会 18:00～19:00
- 9/6, 8, 9 千歳烏山駅 烏山地域九条の会ほか 16:00～17:00
- 9/11 世田谷 1000 人委員会学習会 内田雅敏弁護士 北沢タウンホール集会室 18:30～
演題 戦後補償と平和憲法
- 9/13 戦争させない！九条こわすな！世田谷連絡会憲法学習会 東京土建世田谷支部会議室
18:30～
講演：POSSE（若年労働者の生活相談 NPO）代表 今野晴貴さん
演題：労働相談の現場からブラックな働き方をはねかえそう！
今野晴貴氏の主な著書：「ブラック企業－日本を食いつぶす妖怪」（文春文庫 2015）
- 9/29 戦争させない！九条こわすな！区民集会&パレード 区民会館中庭 10:00～
- 11/9 世田谷・九条の会 14 周年のつどい 13:30～ 成城ホール会議室
講演：永田浩三さん 演題（仮）：メディアと権力

【編集後記】

☆ 毎日暑い日が続いていますが、このところ少し風が涼しく感じられるようになってきました。アメリカとロシア間での核兵器問題、日本と韓国、北朝鮮間での問題といろいろ起きていますが、それを口実に 9 条改憲をまたぞろ言い出しかねない安倍政権。でもそんなことは言わせないように頑張っていきましょう。

☆ 遅い夏休みをとって、三陸に行ってきました。あの 3.11 から 8 年半。まだ、巨大な堤防の建設とかさ上げ工事が続けられていました。かつての市街地は空き地が目立ちましたが、東北の皆さんは懸命に生活再建に取り組んでいました。今年全線開通した三セクの三陸鉄道リアス線では、赤字解消を目指しているいろいろなグッズを売っていました。これはそのひとつ。赤字せんべいもありましたが、宮古では売り切れ。お客さんが増え、クロジカが売れて黒字になることを願っています。

